




ストレス関連疾患に対するヨガ利用ガイド
医療従事者用



ストレス関連疾患に対するヨガ利用ガイド 医療従事者用(第2版)

岡 孝和 (九州大学大学院 医学研究院 心身医学)
金光 芳郎 (福岡歯科大学 総合医学講座心療内科学分野)
守口 善也 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)
松下 智子 (九州大学基幹教育院 学修・健康支援開発部)
有村 達之 (九州ルーテル学院大学人文学部 心理臨床学科)

厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業

ストレス関連疾患に対する統合医療の有用性と
科学的根拠の確立に関する研究

(研究課題番号:H24-医療-一般-025)

本書の目的

現在、多くの方が、ストレスを軽減したり健康な状態を維持、増進するためにヨガを習っています。実際、最近の研究では、ヨガは健康な人の感じるストレス、それによる心身の不調に対して有効であることや、そのメカニズムについても次第に明らかになってきています。

しかしながら、私たちが2013年に行なった、ヨガ教室受講者約2500名を対象とした全国調査では、我が国におけるヨガ受講者の半数以上は何らかの持病を持ち、40%の人は医療機関で治療を受けながらヨガ教室に参加していることがわかりました。いくらヨガが心身の健康によいといっても、病気治療中の方が健康な人と同じヨガプログラムを習うと、有害事象が生じやすくなるのではないかと危惧されます。

ストレス関連疾患(心身症、うつ病性障害、不安障害など)患者や、ストレスを感じている慢性疾患患者が、安全に有意義にヨガを習う事ができるためには、医師が

- 1) 患者がヨガを実習することの適否を判断し、
- 2) 患者とヨガ指導者に対して、患者がヨガを実習する際の注意点を説明する、

ことが大切になってきます。本書は、そのための基礎資料、判断材料として活用していただくことを目的としています。

医師とヨガ指導者が連携することで、ストレス関連疾患患者が安全にヨガを学ぶことができ、病気治癒後は自らの健康状態(well-being)を向上させ、ストレス抵抗性(resilience)を養うセルフケア法として、ヨガを活用できることを祈っています。

第2版 2015年12月29日



目次

1. ヨガとは	5
2. ヨガのストレス緩和作用の機序	8
3. ヨガのエビデンス	10
4. ヨガの安全性	12
5. ストレス関連疾患患者が ヨガを安心して利用できるために	14
6. 参考文献	17
7. 主治医からヨガの先生への申し送り	18

1. ヨガとは

ヨガとは「つなぐ」、「結びつける」という意味であると言われています。「身体と心の科学」であるという人もいます。ヨガでは、身体と心を健やかに保つために、8つの段階を示しています。

最近、ヨガはストレス性疾患/愁訴に対して有効であるという研究報告が増えてきました。またその機序についても次第に明らかになってきています。

ヨガの医学的効用に関する論文の中にでてくるヨガとは、8つの段階の中のおもに3つ、つまりポーズ(アーサナ)、呼吸法(プラーナーヤーマ)、瞑想(ディアーナ)を含んだプログラムを指すことが多く、この3つは、我が国のヨガ教室でも指導されています。

医学的な効用や注意点を考える上でのヨガの特徴は、

- (1)ヨガは運動であり、呼吸法であり、瞑想である点と、
- (2)動作と呼吸を一致させて行い、その中で生じる内受容(interoreception,内受容覚とも言う)に意識を向けるという点と、(3)交感神経優位の状態から副交感神経優位の状態に導くという点、です。

1) ヨガ教室では何種類ものポーズを練習します。

座った姿勢で行なうポーズの他に、立って行なう、そらす、ねじる、足を頭より上にあげたり、片足だちになるポーズもあります。日常生活ではしない姿勢や、普段使わない筋肉のストレッチを行ないます。

正しく行なうと筋力がついて身体が軽くなり、柔軟性、バランス能力が養われます。

その反面、筋肉痛、関節痛を生じやすいです。特に膠原病、整形外科疾患、病的骨折をおこしやすい病気の人、血圧、眼圧の高い人では注意が必要です。まためまいを訴える人や高齢者では転倒しないよう注意が必要です。

2) 普段と異なる呼吸を意識的に練習します。

普段よりゆっくりとした呼吸やはやい呼吸を意識的に練習したり、ポーズにあわせて行ないます。息をすったあと、止める練習もあります。

正しく行なうと呼吸をとおした感情コントロール、腹式呼吸が身につき、副交感神経優位の状態をつくりやすくします。

その反面、はやい呼吸は過換気発作を誘発したり、不安感が強くなる場合があります。息止めは高血圧の人では注意が必要です。

3) 内受容に意識を向けます。

正しく行なうと体調(身体の声)にしたがったセルフケアが行ないやすくなります。自分の身体を大切に感じるようになります。

その反面、心的外傷体験のある人では、いやな体験を思い出して精神的につらくなることがあります。また疼痛性疾患患者では、一時的に痛みを強く感じる場合があります。

4) 目を閉じて瞑想することがあります。

正しく行なうと深くつろぎ、静かで平和な、おだやかな気持ち、自他肯定的で、前向きな気持ちになれます。

その反面、人によっては不安が増すことがあります。パーソナリティ障害の既往のある人、幻覚のある人、活動性の精神疾患を患っている人では瞑想は避けるべきです。

5) セルフケアの方法です。

正しく行なうと健康保持、増進のための有用な習慣を身につける事ができます。

その反面、指導者がいないと我流(頑張りすぎる、力を入れすぎる)になり有害事象を生じやすくなります。また職場、学校等への適応や環境要因、人間関係によるストレスで病気になっている人では、ヨガによるセルフケアだけで解決できないことも多く、ストレス性疾患の治療として考えると、ヨガは決して万能ではありません。

6) 60分から120分のプログラムが多いです。

がんなどの消耗性疾患やうつ病患者では体力的についてゆけなかったり、かえって疲労感が増すことがあります(注)。

7) 原則的に、ヨガ教室は健康な人を対象としています。

健康な人にとって有効な方法も、ある病気の人にとっては有効とは限りません。

例:多くの教室では最後にくつろぎのポーズ(シャバアーサナ)を行ないませんが、くつろぎを促すために音楽を流すことがあります。しかし聴覚過敏のある人、片頭痛発作後では、かえって具合が悪くなる人もいます。

8)交感神経機能は抑制され、副交感神経機能が賦活化されます。

交感神経が関与する病態(ストレスによる血圧、血糖の上昇、じんましんの増悪など)に対しては効果が期待できる反面、胃潰瘍、機能的胃腸症患者では心窩部痛や腹痛が、起立性低血圧、起立性調節障害患者ではたちくらみや頭痛、気分不良が、喘息患者では気道分泌の増加がおこりやすくなるので注意が必要です。

ですから患者がヨガを安全に有意義に練習するためには、医学的な観点から、患者の状態に応じた注意点を、患者とヨガ指導者に伝えておくことが大切になってきます。

.....

(注)したがって臨床心理士の資格を持つなどストレス性疾患に関する知識を持つ、もしくは指導経験の豊富なヨガ指導者による個別指導、もしくは病態に応じたプログラムをお願いする、時間を短くする等の配慮をしていただくなど、医療者とヨガ指導者の連携が必要でしょう。

2. ヨガのストレス緩和作用の機序

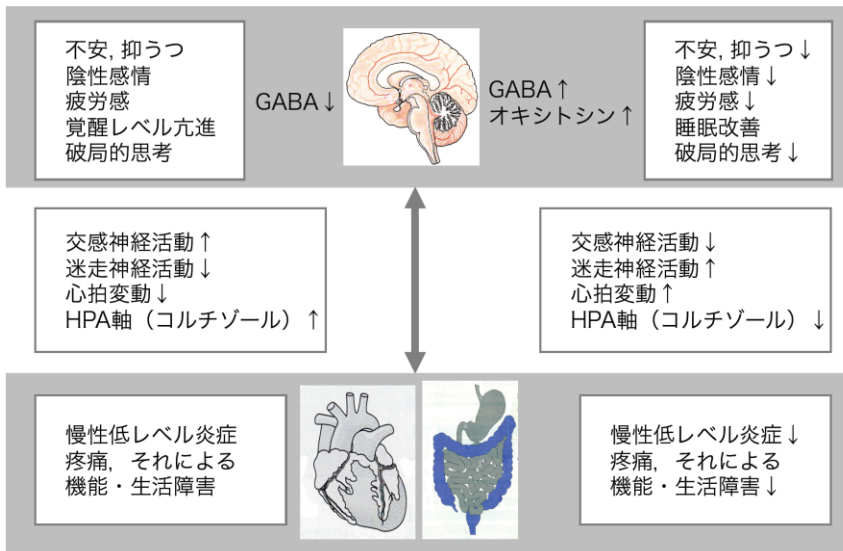
ストレス反応: ストレス状況におかれた健康な人や、多くのストレス関連疾患患者は、しばしば不安感や抑うつ気分、落胆や怒りなどの陰性感情、疲労感を訴えます。また覚醒レベルは亢進し、刺激に対して過敏に反応したり不眠となります。さらに身体症状に対して、「この症状のために、自分は何もできない」など破局的に考え行動することで、認知と行動が適応的なものでなくなります。

交感神経・副腎髄質系と視床下部-下垂体-副腎皮質系の活動が亢進する一方で、心臓迷走神経活動は抑制され、心拍変動(heart rate variability, HRV)が低下します。

またストレスが慢性化すると、全身性に慢性低レベルの炎症を生じ、動脈硬化が進行したり、炎症性疾患が増悪します。ストレスフルな外部環境に適応するために多大なエネルギーを要し、生体は疲弊、消耗します(アロスタティック負荷)。特に痛みが増強すると、そのために生じる機能障害、生活障害も問題となり、全体として生活の質は低下します。

(a) ストレス状態/ストレス性疾患

(b) ヨガによって生じる変化



(図1) ストレス状態に対してヨガが有用性を発揮する機序(文献1を改変)。

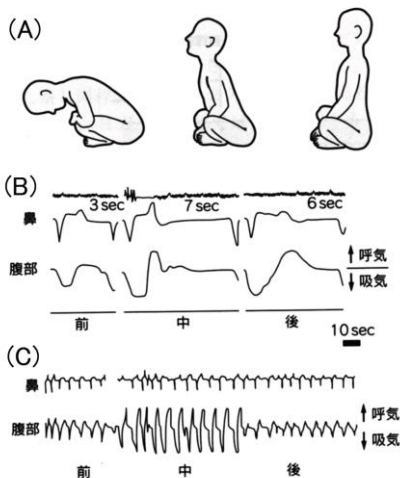
(a) ストレス状態、もしくはストレス性疾患患者でみられる病態。(b) ヨガによって生じる変化。HPA, 視床下部-下垂体-副腎皮質; GABA, γ -アミノ酪酸。

ヨガによって生じる反応:ヨガを練習すると、ストレスによる生体変化に対しておおむね拮抗的な反応が生じます。

図2に示したように、ヨガのポーズを正しく行なうと自然に呼吸が深く長くなります。ヨガ教室では、このようなポーズをいくつも組み合わせて練習しますが、ヨガを行なうと、不安、抑うつ、陰性感情、疲労感は減少し、痛みに対する破局的思考や睡眠障害が改善することが報告されています。またヨガによって抑制性神経伝達物質であるγ-アミノ酪酸(γ-aminobutyric acid, GABA)の脳内レベルや血中オキシトシン濃度が上昇することもわかってきました²⁾³⁾。

さらにヨガを練習すると交感神経活動と血中、唾液中コルチゾール値は低下し、HRVは増加します。高感度CRPやIL-6などの炎症マーカー値は低下、もしくはストレス性の増加を抑制します。また身体を動かすにもかかわらず、血中乳酸値は低下します。その結果、ヨガを実習すると、おおむね生活の質が向上します。

またヨガの練習は内受容(身体の中からの感覚、身体の声)に意識を向けるので、心身症患者に対しては、ヨガで得られたリラックスした感覚を通して、普段の自分がいかに緊張していた



(図2)ヨガのポーズ(アーサナ)による呼吸曲線の変化⁴⁾

かを理解したり、リラックスするとストレス性の身体症状が実際に和らぐことを体験するなど、心身相関の洞察を得やすくなる点も有用です。

注1: 迷走神経機能の賦活は抗炎症、鎮痛作用を発揮します。

注2: 大うつ病、心的外傷後ストレス障害、てんかん、慢性疼痛患者は、脳内GABA系の低下、ストレス性の増悪、HRVの低下という共通点があります。ヨガはこれらの疾患に対して有効に作用しますが、その共通する機序として脳内GABAとHRVの増加が示唆されています²⁾。

3. ヨガのエビデンス(健康な人のストレスマネジメントとして)

【システマティックレビュー(SR)⁵⁾のまとめ】

ヨガは健康な人のストレスを軽減するために有用である。特に不安、抑うつ気分、自覚ストレスを軽減する効果がある。ヨガは認知行動療法、リラクゼーション法などの他のストレス軽減法と同等に有効である。

【就労者のストレス対策として】

職場ストレス対策としてヨガを取り入れたプログラムが有効とする報告が複数あります。1回1時間、週に1回から2回のヨガを6週から24週行なうと、自覚ストレス、抑うつ気分などの精神的健康指標、睡眠が改善します。またヨガは疲労の改善効果にも優れます。週に1時間、数ヶ月のプログラムであれば日本の企業でも十分実施可能であり、ストレスの多い職場では、ストレス対策としてヨガを取り入れる価値があると思われれます。

ただしこれまでの研究では、参加者の70-85%が女性です。男性の多い職場では、男性がヨガを希望するかどうか、あらかじめ検討しておくべきでしょう。またヨガをは不安、抑うつ、不眠などに比べ、怒りの改善効果に乏しい点には注意が必要です。

【学生のストレス対策として】

高校生に対しては成人と同様、有効ですが、小学生に対しては効果は不明です。高校生を対象とした研究では、ヨガは体育の授業よりも怒りの制御、疲労感、無気力、不安緊張感の改善にすぐれていました。しかしながら小学生では、ヨガによって自覚ストレスが増えたという報告があります。小学生はヨガよりサッカーなどの体育を好む様です。

【高齢者の健康対策として】

高齢者ではヨガはストレス軽減法としてだけでなく、全般的な生活の質(睡眠、身体的、精神的健康度)を向上させ、運動能力(バランス維持、柔軟性)を向上させる方法として有用です。高齢者にはアーサナは運動療法としての意味もあるようです。

動機づけのある健康な人であれば、ヨガはストレス軽減、健康維持、向上の方法として勧められます。

3. ヨガのエビデンス(ストレス関連疾患, 慢性疾患患者のストレス)

さらに、ヨガはプライマリーケアでみるストレス性愁訴、不眠症やうつ病などの精神疾患、身体疾患患者のストレス性愁訴(不安、抑うつ、不眠や疲労感など)や疼痛に対しても、現代医学的治療の増強療法、もしくは補助療法として効果が期待できるとする研究が増えてきています⁶⁾。

【プライマリーケアでのストレス性愁訴/疾患】

ヨガは悩みやストレスを抱えた人、ストレス関連疾患患者の自覚ストレス、不安、不眠を軽減し、健康状態を改善する効果が期待できます。

【精神疾患】

うつ病、睡眠障害、注意欠陥・多動性障害、統合失調症に対する薬物療法の増強療法としての有用性が示唆されています⁷⁾。

不眠症(SR)⁷⁾: ヨガは不眠症に対して、増強療法として考慮されても良い。しかしながら低レベルの研究による評価であり、もっと質の高い研究の集積が望まれる。

うつ病(SR)⁷⁾: ヨガはうつ病に対して、急性の有益性がある可能性を支持するエビデンスがあるものの、小規模、短期間の研究が多いなどの問題点がある。長期効果、再発予防効果は不明。

不安障害(SR)⁸⁾: これらまでの研究は方法論や診断に不適切な部分が多く、ヨガが不安障害に対して有効とは結論することはできないものの、強迫性障害に対しては有望。問題点: 臨床的な不安に対する効果の研究がほとんどない。

【身体疾患患者のストレス性愁訴】乳がん(SR)⁹⁾をはじめ、身体疾患患者の訴える自覚的ストレス、不安、抑うつ、落胆などの精神愁訴と疲労感を軽減し、不眠や生活の質を改善するという研究が増えています。

ただし患者を対象とした研究では、疾患用に工夫されたプログラムを用いていることが多く、一般的にヨガ教室でのヨガよりゆったりとしたものが多いです。患者にヨガ教室を勧めるときは、この点に注意してください。

【ヨガ教室でみられる有害事象】

私たちが行なった全国調査によると、1回のヨガ教室での練習により、好ましくない症状を生じた人の割合は28%でした。筋骨格系（筋肉痛、関節痛、筋肉がつる）、神経系（ふらつき、身体の一部のしびれ、身体の一部がびくびく動く、気が遠くなる、頭重感）、呼吸器系（咳、鼻詰まり、鼻水）の症状が多く、顔がのぼせる、疲れてぐったりする、なども1%以上でみられました。有害事象を訴えた者の64%は軽微なものであり、実習に支障はありませんでした。しかし有害事象を訴えた人の2%では、痛み、眼前暗黒感、咳、ふらつき、気分不良のため、ヨガの実習を中止せざるを得ませんでした。

【有害事象を生じる危険因子】

この調査で、有害事象の発生頻度は、①本人のヨガ実習への取り組み方、そして②持病の有無によって影響を受けることもわかりました。つまり、その日の体調が悪い、無理をした、実習を身体的、精神的にきついと感じた場合、そうでない場合に比べて有害事象発生のオッズ比が有意に高く、また持病があると、その病気に関連した有害事象の発生が高くなる（筋骨格系疾患があると筋肉痛、関節痛が、呼吸器疾患があると咳、鼻水、鼻づまりが、神経系疾患（自律神経失調を含む）があると耳鳴り、胃痛、腹痛が生じやすい）ことがわかりました。この中で最もオッズ比が高かったのは精神的なきつさで、そうでない人より6.4倍有害事象を生じやすいという結果でした。

さらにヨガ指導者が経験したことのある重篤な有害事象としては、救急搬送を要したものとして、くも膜下出血、股関節亜脱臼、後方への転倒、腹痛、めまい、不整脈、過呼吸発作、不安感が増強し動けなくなったという事例がありました。文献的には、筋骨格系、神経系の症状に加えて目の病気についても注意が必要です。息止め、倒立のポーズによる眼圧上昇が原因で目の病気を起こしやすいためです。座骨神経損傷、脊椎の圧迫骨折、大腿骨骨折、幻覚、頸部の強い屈曲姿勢による脳血栓症の報告もあり¹⁰⁾、このようリスクのある患者では注意が必要です。

	症 状	n	出現率
目・耳	耳鳴りがする	13	0.5%
	目の前が暗くなる	7	0.3%
	目がかすむ	4	0.2%
呼吸器系	咳がでる	80	3.2%
	鼻がつまる	31	1.2%
	鼻水が出る	27	1.1%
	痰がでる	7	0.3%
循環器系	息苦しくなる	22	0.9%
	動悸がする	13	0.5%
	胸が痛む	1	0.0%
消化器系	胃、お腹が痛む	7	0.3%
	吐き気がする	6	0.2%
	下痢する	2	0.1%
筋骨格肉系	筋肉痛がする	132	5.3%
	関節が痛む	122	4.9%
	足や筋肉がつる	43	1.7%
皮膚	顔がのぼせる	24	1.0%
	皮膚がかゆくなる	13	0.5%
	異常に汗をかく	10	0.4%
神経系	身体がふらつく	101	4.0%
	身体の一部がしびれる	47	1.9%
	身体の一部がびくびく動く	41	1.6%
	気が遠くなる(ボーっとする)	33	1.3%
	頭が重くなる	24	1.0%
	暑くなったり冷たくなったりする	22	0.9%
疲労	頭痛がする	18	0.7%
	疲れてぐったりする	25	1.0%
精神的	気分がわるくなる	16	0.6%
	緊張する	14	0.6%
	体がふるえる	6	0.2%
	不安になる	5	0.2%
	いやな体験を思い出す	5	0.2%
	憂うつになる	3	0.1%
	泣きたい気持ちになる	2	0.1%
	いらいらする	2	0.1%
	恐ろしい考えが頭に浮かぶ	1	0.0%
	おびえる	1	0.0%
	感情がたかぶってしまう	1	0.0%
合 計		931	37.1%

表1：
1回のヨガ教室の受講
で生じた有害事象の
頻度と内容

ヨガ教室参加者の54%
が有病者、42%は病院
に通院中。
(2013年に実施した、全
国のヨガ教室受講者約
2508名を対象とした調査
より)

5. ストレス関連疾患患者がヨガを安心して利用できるために

健康な人がストレスを軽減し、健康状態を向上させるために、指導者のもとで正しく練習するヨガは有効です。その機序も明らかになってきています。

持病のある人がヨガ教室でヨガを実習することもおおむね安全ですが、まれに重篤な有害事象がみられます。

したがって、ストレス関連疾患患者がヨガを希望する場合には、①ヨガが適しているかどうか、②ヨガをはじめてよい時期かどうか、③習うときの注意点について、医学的なアドバイスが必要です。

【ヨガが適しているかどうか】

適応:

- 1) ヨガを習うことに対する動機づけがある。
- 2) 病気、病状が、ヨガの適応である。
- 3) 病態にストレスが関与していると考えられる。

患者がヨガを習い始めて良かった点について、医師の意見を紹介しますので、参考にしてください。

【患者がヨガをはじめてよかった点】

うつ病の緩和、減薬ができた(7名)。リラックスできるようになった(5名)。不眠が改善した(3名)。元気になった(2名)。便秘が改善した(2名)。肥満が改善した(2名)。

慢性疼痛が緩和した。発達障害児の集中力が増した。喘息のコントロールがよくなった。気持ちが前向きになった。自分の体力に自信を持てるようになった。身体症状へのとらわれが減った。肩こりなどよくなり、めまいや頭重感が低下した。高血圧患者の血圧が安定した。双極性障害の方が気分の波への気づきが良くなった。母子でヨガを習ったところ親子関係がより密になった。なお子供の疾患は頭痛、腹痛、不登校であった(1名ずつ)。

(医師140名を対象とした調査より。140人中、40人の医師が、担当患者の中にヨガを習っている人がいると回答。内訳は内科52名、精神科25名、心療内科15名、整形外科9名ほか)



【ヨガを始めてよい時期かどうか】

始めてよい時期

- 1) 消耗、疲労性疾患、うつ病: ある程度体力の回復した時期。
うつ病であればリワークを検討するような時期。
- 2) 持病のコントロール: 急性期をすぎ安定している時期。
- 3) 精神的に落ち着き、多少、自分の内面的なことに直面化しても大丈夫と思える時期。
- 4) セルフコントロール法、リラクゼーション法を身につけた方がよいと思える時期。

始めない方がよい時期:

- 1) 消耗、疲労性疾患、うつ病: 安静の必要な時期。
- 2) 病状が急性期、不安定な時期、薬物を変更している時期。
手術直後。
- 3) 精神的に不安定な時期、心的外傷体験を持つ患者では、内面的なことに直面化するのがつらい時期。
- 4) 回避傾向、負担感: ヨガを習うことで、直面化しなければならぬ問題から回避しがちな時期。
セルフケア、セルフコントロールが精神的に負担に感じる時期。

【患者がヨガを習うときの注意点】

- 患者とヨガ指導者に対して、病名と、その病気に応じた注意点を説明してあげてください。
- 患者に対して、体調に従い、無理をしない、がんばりすぎない、人と競わないこと、
ストレス軽減のためには、ポーズをきれいにこなおうと頑張ると逆効果であり、心地よくなるポーズとペースが最も適していること、を説明してください。
- 患者に対して、病気や薬(特に減薬や廃薬)についての説明や意見をヨガ指導者に求めず、主治医に尋ねる様、確認しておいてください。



○ 最後のページに、「担当医からヨガの先生への申し送り」を用意しています。切り離すか、コピーしてご利用ください。

○ ヨガの臨床効果については、2000年から2012年までの間に、200以上のランダム化比較試験(RCT)があります。

<http://okat.web.fc2.com/>に概略を紹介していますので参照してください。

6. 参考文献

- 1 岡孝和: リラクゼーション法、ストレスマネジメント法としてのヨガ、気功. 産業ストレス学会誌2014;21:161-168.
- 2 Ciraulo DA, Brown RP: Effects of yoga on the autonomic nervous system, gamma-aminobutyric-acid, and allostasis in epilepsy, depression, and post-traumatic stress disorder. *Med Hypotheses* 2012;78:571-579.
- 3 Jayaram N, Varambally S, Behere RV, Venkatasubramanian G, Arasappa R, Christopher R, Gangadhar BN: Effect of yoga therapy on plasma oxytocin and facial emotion recognition deficits in patients of schizophrenia. *Indian J Psychiatry* 2013;55:S409-413.
- 4 岡孝和, 他: 気管支喘息(心身症)に対するヨガ療法の試み. 第一報—肺機能と自覚症状との関連性—. *呼吸器心身研誌*1989;5:137-140.
- 5 Chong CS, Tsunaka M, Tsang HW, Chan EP, Cheung WM: Effects of yoga on stress management in healthy adults: A systematic review. *Altern Ther Health Med* 2011;17:32-38.
- 6 Bussing A, Michalsen A, Khalsa SB, Telles S, Sherman KJ: Effects of yoga on mental and physical health: A short summary of reviews. *Evid Based Complement Alternat Med* 2012;2012:165410.
- 7 Balasubramaniam M, Telles S, Doraiswamy PM: Yoga on our minds: A systematic review of yoga for neuropsychiatric disorders. *Front Psychiatry* 2012;3:117.
- 8 Kirkwood G, Rampes H, Tuffrey V, Richardson J, Pilkington K: Yoga for anxiety: A systematic review of the research evidence. *Br J Sports Med* 2005;39:884-891; discussion 891.
- 9 Sadja J, Mills PJ: Effects of yoga interventions on fatigue in cancer patients and survivors: A systematic review of randomized controlled trials. *Explore (NY)* 2013;9:232-243.
- 10 Cramer H, Krucoff C, Dobos G: Adverse events associated with yoga: A systematic review of published case reports and case series. *PLoS One* 2013;8:e75515.
- 11 <http://okat.web.fc2.com/>
この冊子にとりあげたエビデンス論文の詳細、それぞれの論文の構造化抄録をダウンロードできます。

_____さん__歳、 男性・女性について

(1) 病名/症状

のために当科にかかっています。

(2) 知っておいてください。□当てはまるものにチェック。

現在の血圧は / mmHg程度です。

□()に痛みを訴えています。

□めまい、ふらつき、立ちくらみを訴えています。

□高血圧、□緑内障、□骨粗鬆症 があります。

(3) ヨガ実習の時には、以下の点に注意してください。

身体的:

精神的:

(4) ヨガ実習で、特に行なってはならないこと(ある場合)。

(5) ヨガ実習に期待できる(している)こと(ある場合)。

担当医氏名() 連絡先()

個人情報ですので取り扱いにはご注意ください。

_____さん__歳、 男性・女性について

(1)病名/症状

更年期症候群
うつ病

のために当科にかかっています。

(2)知っておいてください。□当てはまるものにチェック。

現在の血圧は 120/70 mmHg程度です。

□(場所 左膝)に痛みを訴えています。

□めまい、ふらつき、立ちくらみを訴えています。

□高血圧、□緑内障、□骨粗鬆症 があります。

(3)ヨガ実習の時には、以下の点に注意してください。

身体的: ■血圧が高いので倒立のポーズや息止めは避けた方がよい。

■めまいを訴えているので、立位、バランスのポーズは注意。

■腰椎ヘルニアがあります。

精神的: ■頑張りすぎる傾向があるので、注意してみてください。

■速い呼吸で過換気をおこす恐れがあります。

■うつ病です。頑張るなど、励まさないでください。

(4)ヨガ実習で、特に行なってはならないこと(ある場合)。

■心的外傷体験あり。目を閉じさせないでください。

■幻覚の症状があります。瞑想は避けてください。

(5)ヨガ実習に期待できる(している)こと(ある場合)。

■喘息患者です。腹式呼吸をマスターできることを期待しています。

■失体感症傾向が強いです。ヨガで失体感症が改善するよう、期待しています。

■不眠があります。寝る前に行なうとよい呼吸法を教えてください。

担当医氏名()連絡先()

個人情報ですので取り扱いにはご注意ください。

